

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	下水道計画課
課長名	友久
施策番号	
II - 1 - (4) - ④	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	浸水対策事業				
事業概要	近年、集中的な豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。 浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進めると共に流域全体の浸水に対する安全度の向上を図ります。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		3,000,000 千円	千円	合流式下水道改善事業費の一部を含む	165,200 千円
				課長	0.80 人
				係長	2.70 人
				職員	17.20 人
(人件費備考)					

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 平成24年度の雨水整備率は目標値を達成することができませんでした。平成26年度においても、当該年度の目標値に向けて、事業を進めていきます。	見直し内容 平成26年度においても、引き続き事業を計画的に進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 浸水被害の抑制	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公共下水道の整備(雨水整備)を進めると共に流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策を行います。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	浸水被害の抑制					
	過去に大規模な浸水被害が発生した箇所において、10年確率降雨(53.1mm/h)に対応する整備を行うことにより、浸水被害が発生しない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 過去に浸水した地区や未整備地区などの浸水の危険性の高い地区を優先的に整備するとともに、地形的に浸水を起こしやすいと想定される、山手の急勾配から平坦地への変移箇所や現況断面が10年確率の計画断面よりも不足している区域などの整備を計画的に進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	雨水整備率					
	雨水管布設工事等を行うことにより、市内の浸水対策が進められているか表すものです。			71.0 %	%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	上下水道局
						担当課	計画課
事業名 地震対策事業(水道施設)						課長名	谷
						施策番号	
事業概要 大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確保するため水道施設の耐震化を実施するものです。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.04 人
		789,860 千円	千円			4,610 千円	係長 0.10 人 職員 0.42 人

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題 順調に事業は進捗しており、今後も同様に進めていきます。	見直し内容	今後も計画通りに耐震化を進めて、安定給水の向上を図ります。
-----------	--	--------------	-------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	水道施設	大規模な地震が発生した場合においても安全で安定的な給水を確保するために水道施設の耐震化を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	耐震補強対象施設整備率				
	平成27年度までに耐震化を行う13施設について、耐震補強が進められているか表すものです。 (最終目標と目標年度) 平成27年度		92.3 %	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	基幹配水池と基幹浄水場施設の耐震補強を計画的に進めます。	25年度実績	26年度目標		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	耐震補強工事数				
	耐震補強工事を行う箇所数を表すものです。		4 箇所	%	
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	施設課
課長名	中村
施策番号	
Ⅱ - 1 - (4) - ⑤	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	地震対策事業(下水道施設)				
事業概要	大規模な地震が発生した場合においても、下水道の機能を最低限確保するために下水道施設の耐震化を実施するものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.06 人
	662,000 千円	千円		10,676 千円	係長 0.25 人 職員 1.00 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 コスト削減についての検討を続けていきつつ、計画的に着実な取組みを進めていく必要があります。	見直し内容 平成26年度においても引続き事業を計画的に進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 下水道施設	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 大規模な地震が発生した場合においても、最低限有すべき下水道施設の機能確保をするために下水道施設の耐震化を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	耐震補強対象施設整備率					
	5浄化センターの管理棟、汚泥処理棟、自家発電棟の耐震補強が進められているか表すものです。 (最終目標と目標年度) 平成26年度			100 %	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 浄化センターの有人施設(管理棟・汚泥処理棟)や緊急用の非常用発電設備のある自家発電棟の耐震補強を計画どおり進めます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	耐震補強工事数				
	耐震補強工事を行う箇所数を表すものです。			5 箇所	%
	(最終目標と目標年度)				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	上下水道局
							担当課	配水管理課
事業名 アクアフレッシュ事業(学校の直結式給水の推進)							課長名	津田
							施策番号	
事業概要 水槽式給水の小中学校等では、近年の児童、生徒数減による使用水量の減少や、休日に水を使用しないことなどにより、貯水槽内に水が滞留し、水のおいしさが軽減する状況にあります。そこで、上下水道局では市立小中学校等の直結式給水への切替えを推進するため、既存の給水管口径のまま直結式給水への切替えが可能な学校を対象に直結化の支援をしています。							事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (工事費助成)	
							コスト	
事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	目安の金額	課長	0.05 人	(人件費備考)		
	35,000 千円	千円	2,950 千円	係長	0.05 人			
				職員	0.25 人			

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	本事業は、教育委員会に対して技術的支援や助成金等の支援を行うのですが、震災発生後、学校の耐震化の優先度が高まったため、本事業の対象となる工事の予定が修正されることとなりました。 教育委員会において学校の耐震化を優先して見直した工事計画に合わせ、本事業の最終目標を平成27年度までに81%と修正しました。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市立小中学校等の生徒	よりおいしい水道水を飲むことができるようにすること。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	学校直結率				
	市立小中学校の内、直結式給水を採用している学校の割合です。 (直結式給水の学校数/全学校数)		76 %		
	(最終目標と目標年度) 81% (平成27年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	学校の直結化に要する工事費の一部助成を行います。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	学校直結化数				
	学校の直結化に要する工事費を助成した件数です。		11 校		
				%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	下水道計画課
課長名	友久
施策番号	
Ⅲ - 1 - (3) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	合流式下水道改善事業					
	事業概要 合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れでることがあります。放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくります。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.60 人
	2,800,000 千円				121,150 千円	係長 1.75 人 職員 12.90 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度の合流改善率は目標値を達成することができました。平成26年度においても、当該年度の目標値に向けて、事業を進めていきます。	見直し内容 下水道法施行令で定められた期限(平成35年度)を見据えて、平成26年度においても、引き続き事業を計画的に進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	合流式下水道区域における汚濁負荷量	分流式下水道並みに軽減するため、分流式下水道区域の拡大や雨水滞水池の設置などを進め、良好な水環境をつくります。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	良好な水環境の実現					
	公衆衛生上の安全確保のため合流区域において、未処理の生活排水が河川等に流入しない状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成35年度				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 浸水対策や改築更新に併せ一体的に取り組むことはもとより、河川整備等の他事業とも緊密な連携を図りながら、合流式下水道の改善を進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	合流改善率					
	雨水整備による分流化及び雨水滞水池の設置を行っていくことで、合流式下水道の改善が進められているか表すものです。		34.6 %		%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	浄水課
課長名	有田
施策番号	
V - 1 - (4) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	小水力発電設備設置事業				
事業概要	水道施設における再生可能エネルギーを有効に利用するため、小水力発電の整備推進を図るものです。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.01 人
	198,720 千円	千円		1,340 千円	係長 0.01 人 職員 0.15 人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 現地の状況に適合する水車が無いなどの技術的理由や、発電量に大きな影響を及ぼす水運用形態の変化など、小水力発電の導入可能な場所は非常に限られてきます。	見直し内容 導入の可能性がある場所について、導入に向けた詳細検討を行います。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 水道施設	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 再生可能エネルギーの有効利用を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	再生可能エネルギーの有効利用		再生可能エネルギー有効利用 推進		
	水道施設における再生可能エネルギーの有効利用を目指します。 (最終目標と目標年度) 小水力発電新設2箇所 (平成27年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画			活動の状況		
活動計画	どうやって目的を達成するか 平成26年度は新たな小水力発電の導入に向けた検討を行います。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	小水力発電の導入検討		1 箇所		
	新たな小水力発電の導入に向けた詳細検討を行います。			%	
	小水力発電の更新		1 箇所		
老朽化した既設小水力発電の更新を行います。		%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	上下水道局
							担当課	施設課
事業概要							課長名	中村
							施策番号	
事業名	下水道資源の有効利用						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを行います。							
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	
		2,014,535 千円	千円			127,275 千円	係長 2.33 人 職員 12.33 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	下水汚泥の再資源化については、平成27年度供用開始予定の燃料化設備稼働までは、現在の有効活用方法に変更はありません。下水処理水有効利用については、目標を下回っており、処理水の再利用率が増加するように努めていきます。	見直し内容	最終目標を達成するため、汚泥の有効活用に努めるとともに、処理水の再利用率が増加するよう他の用途への有効活用の検討等に努めていきます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	下水道資源	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを一層進めます。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	下水汚泥の再資源化率					
	浄化センターで発生する下水汚泥をセメント原料化や一般ごみとの混合焼却によるごみ発電の燃料として再利用することで再資源化を行った割合。 (最終目標と目標年度) 平成28年度に98%			95 %	%	
	下水処理水有効利用率					
浄化センターで処理した水を場内の雑用水や修景用水、民間工場等の用水として再利用した割合。 (最終目標と目標年度) 平成32年度に10%			7.1 %	%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	現在の下水汚泥処理方法以外に、更なる再資源化に向け汚泥燃料化施設建設工事を施工中です。また下水処理水の有効利用は、更なる利用率の向上のため、現状以外の利用方法の検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	更なる再資源化へ向けての検討					
	浄化センターで発生する下水汚泥の更なる再資源化として汚泥燃料化設備を平成27年度供用開始に向けて施工中です。燃料化設備により、火力発電所などの石炭代替燃料となりCO2排出削減効果があります。			燃料化施設建設事業の適切な執行	%	
	他の用途への有効利用についての検討					
現状の利用形態だけでは、頭打ちのためその他の利用用途を検討する必要があります。			単年度目標設定なし	%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋
施策番号	
VII - 1 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	上下水道技術の国際協力			
事業概要	アジアを中心とした国や地域(カンボジア、ベトナム国ハイフォン市、中国大連市、インドネシア、サウジアラビアなど)への職員派遣や海外からの研修員受入れにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。 併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。			
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
	80,259 千円	千円		目安の金額 課長 1.60 人 係長 1.80 人 職員 3.00 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会 (CLAIR) の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、更なる現地の技術力向上への寄与が必要と考えています。 JICAや国の制度を活用するなどコスト削減を図りながら着実な事業実施に努め、開発途上国の技術向上を図ります。なお、平成26年度予算が増額しているのは、JICA草の根技術協力事業の採択を受け、関連経費が増えたためです。事業内容を変更するものではありません。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) アジアを中心とする水環境の改善が必要な国や地域(カンボジアや友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市、インドネシアなど)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い、海外の技術者を育成します。また、技術継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	国際技術協力でアジアの発展に貢献		開発途上国の技術向上を目指します。		
	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 (最終目標と目標年度)			%	
				%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 上下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、海外の上下水道事情や国際技術協用に精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)などと連携して取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	海外からの研修員受入人数(上水)		80 人		
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会 (CLAIR) 事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構 (JICA) や北九州国際技術協力協会 (KITA) などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	人		%	
	海外からの研修員受入人数(下水)		200 人		
本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会 (CLAIR) 事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構 (JICA) や北九州国際技術協力協会 (KITA) などの依頼により受け入れた研修員の人数です。	人	%			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋
施策番号	
VII - 1 - (3) - ②	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	海外水ビジネスの推進				
	事業概要				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	96,094 千円	千円			課長 1.40 人 係長 2.20 人 職員 3.00 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、インドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行ってきました。その結果、平成24年度は上下水道併せて4件のビジネス案件を受注するなど、徐々に成果が現れていますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であると考えます。	見直し内容 北九州市海外水ビジネス推進協議会とより一層、緊密に連携し、案件形成・獲得を目指します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、中国・大連市、インドネシアを中心とする対象国	民間企業が有する高い技術力や資金力と自治体が有する事業運営ノウハウや信用力を結集し、海外の上下水道ビジネス案件の受注を図ります。	成果の状況		
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注		単年度目標設定なし		
	アジアを中心とした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)			%	
代表的な成果指標	下水道に関する水ビジネス案件の受注		単年度目標設定なし		
	アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、下水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技術協力により緊密な人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面の対象として、水ビジネスを展開します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	海外水ビジネスの推進		単年度目標設定なし		
	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。			%	
	国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動		単年度目標設定なし		
	平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的な活用策や管理運営体制の検討を進めます。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	上下水道局
					担当課	海外事業課
事業名	海外水ビジネスの推進				課長名	中嶋
					施策番号	
事業概要	海外水ビジネスは、2025年には、上下水道分野など合わせて約87兆円規模の市場に成長すると見込まれており、国の新成長戦略においても、アジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が位置づけられています。このような中で、「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、官民がそれぞれ有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営までを含む海外の水ビジネス案件の受注を目指します。併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進めます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
						コスト 事業費

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォン市、インドネシアで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を行ってきました。その結果、平成24年度は上下水道併せて4件のビジネス案件を受注するなど、徐々に成果が現れていますが、更なる案件獲得に向け、積極的な活動が必要であると考えます。	見直し内容	北九州市海外水ビジネス推進協議会とより一層、緊密に連携し、案件形成・獲得を目指します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、中国・大連市、インドネシアを中心とする対象国	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 民間企業が有する高い技術力や資金力と自治体が有する事業運営ノウハウや信用力を結集し、海外の上下水道ビジネス案件の受注を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	上水道に関する水ビジネス案件の受注			単年度目標設定なし		
	アジアを中心とした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)				%	
	下水道に関する水ビジネス案件の受注			単年度目標設定なし		
アジアを中心とした国や地域を対象に、国際戦略拠点を活用しながら、下水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)				%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸として、国際技術協力により緊密な人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面の対象として、水ビジネスを展開します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	海外水ビジネスの推進			単年度目標設定なし		
	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。				%	
	国際戦略拠点の効果的な活用に向けた活動			単年度目標設定なし		
平成27年度からの活用に向け、関係課と緊密に連携しながら、具体的な活用策や管理運営体制の検討を進めます。				%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点